

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【公表番号】特表2008-509237(P2008-509237A)

【公表日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【年通号数】公開・登録公報2008-012

【出願番号】特願2007-524327(P2007-524327)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/72 (2006.01)

B 0 1 J 13/14 (2006.01)

C 0 8 G 18/32 (2006.01)

D 0 6 M 15/564 (2006.01)

D 0 6 M 23/08 (2006.01)

D 0 6 M 23/12 (2006.01)

D 0 6 P 1/44 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 18/72 Z

B 0 1 J 13/02 B

C 0 8 G 18/32 Z

D 0 6 M 15/564

D 0 6 M 23/08

D 0 6 M 23/12

D 0 6 P 1/44 H

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月25日(2008.7.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(i)部分的にブロックされたポリイソシアネート及び繊維反応基で部分的に変性されたポリイソシアネートの群から選択される少なくとも1種のポリイソシアネート誘導体と(ii)少なくとも1種のポリアミン又は多価アルコールとの界面付加重合によって得られるポリウレタン又はポリウレアマトリックスからなる完全に形成されたシェル及びコアを有する機能化粒子であって、基材に化学的に又は物理的に結合可能な機能化粒子。

【請求項2】

請求項1に記載の機能化粒子の製造方法であって、

水中油分散液を製造する工程及び、(i)疎水性の油相中に溶解した、部分的にブロックされたポリイソシアネート及び繊維反応基で部分的に変性されたポリイソシアネートの群から選択される少なくとも1種のポリイソシアネート誘導体と(ii)水相中に溶解した、少なくとも1種のポリアミン又は多価アルコールの各分散油滴の周りの油-水界面で縮重合させる工程を含む方法。

【請求項3】

請求項1に記載の機能化微粒子で変性された化合物又は基材の製造方法であって、前記化合物又は基材と請求項1に記載の機能化微粒子を反応させて、該化合物又は基材に該微粒子を付着させることを含む方法。

【請求項4】

繊維反応基で部分的に変性されたポリイソシアネート。